

武蔵野市市民活動推進委員会
平成 30 年度第 1 回委員会 議事要旨

日時：平成 30 年 9 月 25 日（火）午後 1 時から 3 時
場所：武蔵野市役所 812 会議室

1 開会

(1) 委員自己紹介

■委員長

- ・ 委員の任期が現在半ばとなった。
- ・ 事務局が一新され、また、新任の委員もいるため全委員の自己紹介をしていく。
- ・ 独歩の森という武蔵野の雑木林を保全する緑ボランティア団体、武蔵野の森を育てる会という活動をしている。市の緑のまち推進課と協働で行っている。
- ・ 市民活動促進基本計画の策定に委員として関わり、そのため改定計画の策定にも関わった。市民活動がより活発になって、行政との実のある協働の実現を促していける委員会としていきたい。

■副委員長

- ・ 大学でボランティアセンターの立ち上げに携わり、学生のボランティア活動を推進している。
- ・ オリパラ関連の委員を大学と市でやっている。ルーマニア交流事業に 3 年前より関わっており、研修生の受け入れ支援を行っている。研修生には大学で授業をやってもらい、また、高校でも交流をしてもらった。大学と地域を結ぶ立場から市民活動推進委員会に参加している。

■委員

- ・ 武蔵野市民社会福祉協議会の副会長という立場で参加している。ボランティアセンター武蔵野の運営副委員長や、市の事業である特定非営利活動法人補助金の審査委員長も務めている。
- ・ 本業は不動産業。市との関わりは市の住宅対策課と入居者の支援、特に高齢者や障害者の入居支援を業界と組んで支援している。また、住宅相談などもやっている。

■委員

- ・ 武蔵野プレイスの運営協議会委員として参加している。NPO のひまわりママや、青少協の第 2 地区でも活動している。
- ・ 武蔵野市全体の市民活動といった大きなことはわからないが、もう少し大きな視野で

色々見たいと思い市民活動推進委員会に参加した。

■委員

- ・ 今年4月に武蔵野市役所市民部市民活動推進課長に就任した。
- ・ 就任から半年が経過し、市民活動やコミュニティ、文化の担当をしている部署であるので色々勉強させていただきながら、皆さんと一緒に取り組んでいきたい。

■委員

- ・ コミュニティ研究連絡会から参加している。
- ・ コミュニティとの関わりは、とある市民活動で、当時コミュニティ協議会の会長をされていた方に声をかけてもらったことから始まった。まだ関わって4年目、頑張っていきたい。

■委員

- ・ 公募委員となった際、市民活動に対して色々思うところがあり、同時期に WASHOI! パートナーシップを立ち上げた。委員としてと、市民活動を行う両方の立場から一生懸命やってきた。
- ・ 防災士の資格をとった。子育て広場の運営に関わっており、市民活動と防災と子育てとを連携して促進しようと動いている。
- ・ 得意分野は色々な人を巻き込み、その隙間となること。このようなことが市民活動に必要なだと思っている。

■委員

- ・ 武蔵野プレイスの市民活動を担当している。中間支援組織として、これから活動をする団体から、すでに活動している団体まで幅広くサポートできるように取り組んでいる。

(2) 事務局紹介

事務局の自己紹介

2 議事

(1) 武蔵野市市民活動促進基本計画改定計画の実施状況の評価表について

■事務局

- ・ 新任委員の方への委嘱状は机上配布とさせていただいた。
- ・ 資料1から資料8について説明

■委員長

- ・ 昨年度の振り返りをしたい。
- ・ 平成 29 年度より改定計画がスタートした。第 1 回委員会では平成 28 年度のデータしかなかったもので、それに基づいて議論をしてきた。主に資料 1 を使用し重点施策・基本施策の議論をしてきたが、委員それぞれの日頃の考えが出てきて、改定計画策定の時と変わらないのではないかと。同じ議論をしていては計画の評価そして次年度へ向けての課題を見出すのは難しいのではないかと思った。
- ・ 第 2 回では、資料 7 に記載している事業を手分けして委員に見学をしていただいた。見学をしてイメージをわかせる、また、見学した事業が重点施策・基本施策のどこに該当するかを確認し、それを基に議論をしていた。
- ・ その結果できた資料が資料 2 と資料 3。
- ・ 資料 2 は重点施策の評価。上段が事務局の自己評価。下段が委員会で出た意見をまとめた。資料 3 は基本施策の評価。
- ・ 本日は、昨年度から現在まで委員それぞれの経験から重点施策に絞って議論をしていきたい。また、各事業が改定計画のどの項目に分類されるのかを再確認していきたい。
- ・ 具体例を挙げると、「コミュニティ未来塾むさしの」という事業があり、委員会で昨年度見学を行い、また、委員でも数名受講生として参加されている方もいらっしゃった。位置づけとしては「1-1 市民活動のきっかけづくり」に分類されてもよいと思うが、コミュニティ協議会の運営委員を主な対象としていたことから入っていない。実際に「コミュニティ未来塾むさしの」を見てみると、まだ市民活動をやっていない方がおり、「1-1 市民活動のきっかけづくり」や「2-4 市民活動に関する学びの機会の提供」にも該当するのではないかと感じている。
- ・ まずは、資料 4 を使用し「1-1 市民活動のきっかけづくり」について議論をしていく。

【重点施策の達成状況評価】

1-1 市民活動のきっかけづくり

(質疑・応答)

■副委員長

- ・ 実施主体からの自己評価に「特定のテーマにとらわれず、広く世代別、テーマ別の事業が行われているか進捗を確認する。」とあるが、「特定のテーマにとらわれず」とはどういうことかについて詳しく教えていただきたい。

■事務局

- ・ 子ども向けや市民活動団体など、テーマを決めつけるのではなく、広く事業が行われているかの確認が必要だと考えている。

■副委員長

- ・ 例えば定年退職後に何をやるかと絞っている。何がきっかけになるのかという「学び」。興味のある講座に行き、人脈ができていく。だいたいこの分野でやっていきたいと考えている人にとっては「学び」の場に出て行って、人脈を作って、信頼のできる人に会っていくことが重要。

■委員長

- ・ 市民活動をやられている方の意見を伺いたい。

■委員

- ・ ひまわりママと関わったのは市主催の講習会を受けたとき。講習会后、団体から声を掛けてもらい参加した。以前から関心があったことと、当時時間に余裕があったことが大きいと思う。

■委員長

- ・ 新しい人材を誘う際のきっかけづくりで工夫していることはあるか。

■委員

- ・ ただ集まっているだけでなく、仕事に繋がっていくということを伝えている。また、利用者の子育てが落ち着いてきたら逆の立場になってくれるということもある。

■委員

- ・ 起業を考えている人への支援業務があるが、支援を通じて自分も学びの場となっている。
- ・ 自分が関わっているもの、好きなものなどの特定の分野に絞った方が活動が継続していくのではないか。

■委員

- ・ 裾野の拡大ではなく、縮小が起きているのではないか。
- ・ もう懲りたという意見がある。
- ・ 「きっかけづくり」の前に「もう懲りた」という意見を減らすことが必要。

■委員

- ・ 市や武蔵野プレイスが行っている事業は多くあるが、その区別がされていないと感じる。
- ・ 人生のライフステージにおけるきっかけづくりを、市報や市のホームページでテーマごとに、マークをつけていくとわかりやすいのではないか。

■委員長

- ・ 新しい人材がきてくれる理由は使命感というより、活動を楽しく感じてもらうことが必要。
- ・ 「学び」がきっかけという意見が多かった。学習から市民活動に繋げていくと良いと思う。

■副委員長

- ・ 信頼されている人からボランティアや市民活動参加への声掛けをしてもらうと人を動かすと思う。

■委員

- ・ これまでの議論は自ら何かをやってみようと考えている人向けのきっかけづくりだと思う。その他に、受動的な方向けのきっかけづくりを考えると市民活動への参加人口は増えていくと思う。

■副委員長

- ・ 自分のやってみたい活動があれば、まずはインターネットで探す人が多いと思う。
- ・ 例えば、武蔵野市ではやっていない事業でも近隣地域ではやっているといった情報を市が持っているありがたい。

■委員

- ・ 災害や危機感は大きくきっかけとなると思う。

■委員長

- ・ これまで市民活動を実際にされている方から意見を伺った。
- ・ 市と武蔵野プレイスからの意見を伺いたい。

■委員

- ・ 「コミュニティ未来塾むさしの」は議会や修了生などから高い評価を得られていると思う。講座修了生で同窓会などが組織され、独自に活動がされている。

■委員

- ・ 武蔵野プレイスにも「学びの場」があり、そこから活動へのアプローチができると良いが、生涯学習分野ではまだ足りない。
- ・ 市民活動分野では今年度から市民活動団体の横の繋がりができる施策をやっている。

2-4 市民活動に関する学びの機会の提供

(質疑・意見交換)

■副委員長

- ・ 市民活動を活性化させるには、市が自らやっていない事業であっても、近隣地域で行われている事業などの情報を持ってほしい。「武蔵野市ではこの事業を行っていない」で終わるのではなく、他市では行われているなどの情報提供ができると良い。

■委員長

- ・ 行政がやっている事業は全体のほんの一部。ほとんど民間で行っている。
- ・ 市民に必要な情報が届けられることが重要。
- ・ 2-1 情報提供の充実に入るかもしれないが、市民団体やボランティア団体、大学等が行っている市民活動に関する学習の場を見えるようにすることは大切。
- ・ 武蔵野プレイスが発行している情報誌で広報している。

■副委員長

- ・ 市職員が業務の傍らで全ての事業を把握することは難しいと思うが、「この事業であればどこに相談にいくとよい」などの、知識がありそうな団体と提携しておくとういのではないか。

■委員

- ・ 学びを求めている人と求めていない人がいる。
- ・ 学びはハードルが高い。ものすごく簡単な学びがあってもよい。

■委員

- ・ 誰かの話を聞く学び。講座ではなく体験していく。そのプロセスが学びになっていく。特に子どもは経験すると、次に自分がどうやっていくかを考えるきっかけになると思う。
- ・ 実施主体による評価のところで「武蔵野プレイスを中心に、団体のステージに合わせた支援を充実させることが必要である。」とあるが、武蔵野プレイスを中心と書くと、活動を狭めてしまうと思う。
- ・ 武蔵野プレイスや社協、市民会館がやっている事業をその周辺で吸い上げていき情報を提供する。全体を市のホームページに掲載するのは困難だと思うが、中間支援組織ごとに行えると良い。

■委員長

- ・ ひまわりママのファミリー・サポート・センターの現状を伺いたい。

■委員

- ・ ファミリー・サポート・センターの協力員は増えていない。支援を受けたいという方も増えてはいないと思う。
- ・ 他の子育て支援事業とうまく使い分けている方が多いのかもしれない。

■委員

- ・ 地域社協は色々な事業をやりながら、一人何役もやっている。
- ・ NPOなどは自分の好きなことをやっていく。そことの連携は少ない。
- ・ 武蔵野プレイスでやっていることも、うまく繋ぐと社協でできたり、逆もあると思う。

■委員

- ・ 市民活動に関する学びの機会の提供は武蔵野プレイスだけで行っていくのではないと思う。
- ・ 武蔵野市の施設を広く有効活用していくことではないか。

■委員

- ・ 社協がやっている地域ファシリテーター養成講座は地域課題を体系的に学ぶことに特化していると思う。ただ、PRが小さいと思う。
- ・ 武蔵野プレイスは連続講座のようにスキルアップができる学びの講座があると良いと思う。
- ・ コミュニティ未来塾むさしのは知っている人がまだ少ないと思う。中心がコミュニティ研究連絡会であるが、例えば主催が武蔵野プレイスであつたら違う人たちが集まるのではないか。

2-6 コーディネート機能の強化

(質疑・意見交換)

■副委員長

- ・ この団体なら安全だとチェックをし、紹介することができる、または、アドバイスができるのがコーディネーターだと思う。

■委員長

- ・ 改定計画策定の際、パブリックコメントで、コミュニティ協議会全体でコーディネート機能を発揮するのが重要だというコメントがあつた。コミュニティ協議会としての意見を伺いたい。

■委員

- ・ 地域で様々な活動をしている人が多いので、繋がりづくりはやりやすいと思う。
- ・ 「コミュニティ協議会における中間支援的役割にも期待したい。」と昨年度の委員会による評価及び意見が出ているが、協議会にはこの意見は知っている人はほぼいないのではないか。

■委員長

- ・ 委員会が出た意見などをコミュニティ研究連絡会で伝えていただきたい。

■委員

- ・ コミセンの利用の仕方、地域の方しか利用できないところもあるが、それでもコミセンの機能は重要だと思うのでぜひ伝えてもらいたい。

■副委員長

- ・ 4-1連携と協働に向けたネットワークの構築かもしれないが、フェイスブックやツイッターなどを使い、学部・サークルが違うのにお互いの活動紹介ができていたりするケースもある。SNS等を活用することも重要。

■委員長

- ・ 現在 NPO としての中間支援組織が市にはない。
- ・ 中間支援組織は市全体でなくても分野別にあってもよいのではないか。

(2) 今後の方向性について

■事務局

- ・ 平成 30 年度の委員会では市民活動団体との意見交換をする方針。
- ・ どの団体に意見交換会への声掛けをしていくかを本日決めたい。

■委員長

- ・ 武蔵野プレイスの登録団体や NPO 法人、また、NPO 法人の中でも特に武蔵野市特定非営利活動法人補助金交付団体への声掛けができると思う。
- ・ 市民活動団体の中で、NPO 法人よりも設立しやすい一般社団法人を選ぶケースがある。そちらへの声掛けも検討できるのではないか。

■大上委員

- ・ 意見交換会で何を聞くのか教えていただきたい。

■委員長

- ・ 市民活動団体として活動するにあたり公的セクターからどのようなサポートがあるとよいか、または連携をしていきたいかなど、活動のニーズを聞いていきたい。

■副委員長

- ・ 多数を対象にするのであれば、説明会を開き、後、アンケートをとる形式にしないと難しいのではないかな。

■委員長

- ・ イメージは長期計画などの主だった計画策定の際に開く市民との意見交換会。

■委員

- ・ グループワークはどうか。

■副委員長

- ・ 呼びかけるにしろ、武蔵野プレイスの登録団体数は相当数あるがどうするか。

■委員長

- ・ 市民活動団体と呼ぶことが多いが、個人で行っている方もいるので個人を対象としてもよいのではないかな。

■副委員長

- ・ 大学のボランティアセンターは団体の登録があるが、個人の登録もある。

■委員

- ・ 様々な団体が集まるとバラバラと意見が出てしまうのが懸念。

■委員

- ・ 意見を聞きたいと声掛けをしても集まらないのではないかな。
- ・ 補助金の説明会があるから参加するなど、参加を促す仕掛けやメリットが必要だと思う。

■委員長

- ・ 武蔵野市特定非営利活動法人補助金交付団体の交流会が 12 月にある。その場を利用して意見交換ができるのではないかな。
- ・ 市民へも広報をしていただきたい。
- ・

その他

■委員

- ・ コミュニティ未来塾むさしの修了生の中で、第六期長期計画策定にあたり開催した「無作為抽出市民ワークショップ」や「市民会議」でコミュニティ未来塾むさしの修了生が市民ファシリテーターとして参加した。
- ・ 市民活動推進委員会の方に傍聴してほしかった。

■事務局

- ・ 委員の方への案内ができていなかった。
- ・ 今後、情報提供を行っていく。

■委員

- ・ 第2回委員会でヒアリングを行うのであれば、改定計画「2-2 相談体制の充実」とあるので、同様に扱って良いのではないかと。

■委員長

- ・ 委員会資料で、市や武蔵野プレイス等に寄せられた相談内容を提供して議論の参考にするのは良いことだと思う。

3 事務連絡

- ・ 第2回委員会は、12月の「特定非営利活動法人補助金交付団体の交流会」に委員会で参加し、交流会後委員会を開催することで調整したい。
- ・ 開催日時は平成30年12月9日（日）を予定

4 閉会